

## ⑤ アの検討例

意思の  
表明

クラスの活動はみんなと一緒に楽しくやりたいな。

背景  
実態把握

Aさんの場合（年長）

・体を動かすことが好き。興奮しやすく、自分の思い通りにならないと人を叩くことがある。

Bさんの場合（年長）

・おしゃべりが好き。先生の話の途中でも話し始める。みんなが製作活動をしている時も一方的に話し掛ける。

Cさんの場合（年長）

・ブロック遊びが好き。場面の切り替えが難しい。友達の入って活動することが苦手。言葉での理解が難しい。てんかんがある。

学校の  
基礎的  
環境整備

・特別支援学校のセンター的機能を活用している。地域の保健センターと連携をしている。基(1)  
・特別支援教育コーディネーターがいる。基(2)  
・必要な幼児に個別の指導計画を作成している。基(3)  
・地域の特別支援学校と交流及び共同学習をしている。基(8)

メンバー 本人・保護者・学級担任・特別支援教育コーディネーターで相談・協議

メンバー 本人・保護者・学級担任・特別支援教育コーディネーターで相談・協議

メンバー 本人・保護者・学級担任・特別支援教育コーディネーター・保健センターの職員で相談・協議

検討  
決定  
提供

合理的配慮の内容

・人を叩かずに伝える方法（具体的な言葉・行動、絵カードで伝える方法など）を教える。①-1-1  
・興奮しすぎた時は、毛布やぬいぐるみなど、本人が持っていることで落ち着けるようなグッズを渡す。①-2-3  
・教室の隅をパーテーションや大きな積み木で仕切ったり別の部屋を準備したりするなど、本人が落ち着ける場所を決めて活用する。③-2

合理的配慮の内容

・口を閉じてきちんと椅子に座っている本人の写真や、絵カードを見せる。①-1-1  
・実物を見せながら、今すべき活動を促す。①-2-1  
・手を挙げて当てられた人が立って話すルールをその都度個別で確認する。①-2-2  
・自由時間に本人が好きなことを話す時間を確保する。①-2-3

合理的配慮の内容

・一日の予定を絵カード等を見せながら説明する。①-1-1  
・終了までの回数を予告したり、予鈴機能のあるタイマーを使って音で知らせたりするなど、活動終了の予告を分かりやすく伝える。①-2-1  
・分からないことや困ったことがあったら、先生の所に行くことを教える。①-2-1  
・全体への指示の後、絵・写真・実物等を使いながら個別に分かりやすく説明する。①-2-1  
・てんかんへの対応のため、医療機関との連携を図る。②-1

みんなと一緒に活動できたよ！楽しかった！

評価  
見直し

・興奮した時、教室の隅のスペースに行くことで落ち着くことができた。今後は、活用する時間や回数を減らしていく。グッズはなくてもよい。  
・人を叩かずに伝える方法は継続して行う。

・写真や絵を示しながら伝えると話すことと聞くことの区別がつくようになってきた。  
・自由時間に本人の話を聞いている時に他の子が興味を持って聞くことがあった。みんなの前で話す機会を設けてはどうか。

・絵カードで予定を知らせることができた。今後は、変更があった場合のみ絵カードを活用する。  
・てんかんへの対応で、医療機関との連携はできたが、園内の役割分担を明確にする必要がある。